

岸和田市 立地適正化計画 骨子 イメージ (1/2)

※あくまでも現時点の作成イメージですので今後変更もあります。

第1章 はじめに

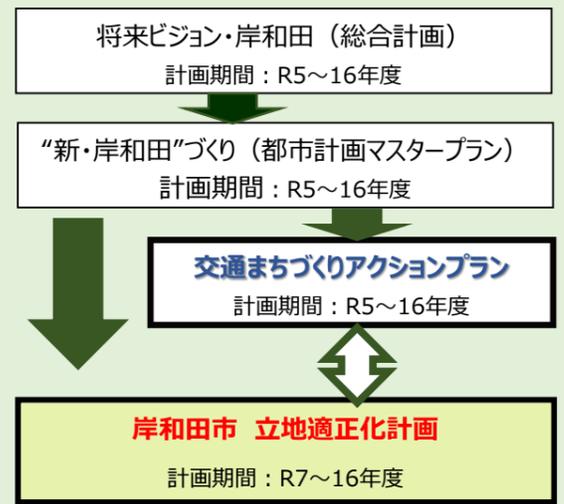
1.計画策定の背景と目的

○人口減少下において我が国では持続可能な都市構造の構築に向けた新たな制度として、平成26年に立地適正化計画制度を創設

○本市においては、**広域ネットワークを活かしつつ、拠点を中心とした都市機能の集積と拠点等へのアクセス性の向上など交通ネットワークの形成によって生活利便性の維持・向上を図っていく**ことをめざしており、これを実現するための取組みとして立地適正化計画を策定

2.立地適正化計画の位置付け

○将来ビジョン・岸和田(総合計画)、「新・岸和田」づくり(都市計画マスタープラン)がめざすまちづくりを実現していくために、交通まちづくりアクションプランと連携した「立地適正化計画」を策定



3.立地適正化計画の基本フレーム

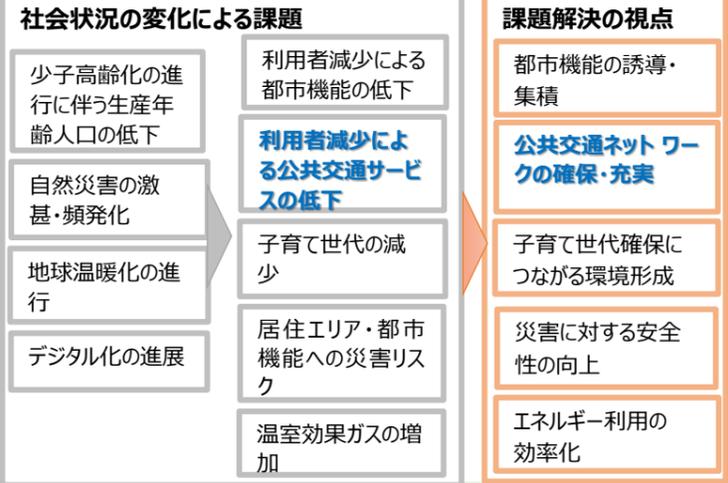
- (1) 対象区域 都市計画区域(岸和田市全域)
- (2) 将来推計人口(令和27年) 約148,000人

第2章 立地適正化計画策定に向けた課題の整理

1.社会状況の変化

- (1)生産年齢人口割合の低下(推計)
- (2)自然災害の激甚化・頻発化
- (3)地球温暖化の進行(世界的な共通課題)
- (4)デジタル化の進展(社会構造の変化・新たな手段)

2.立地適正化計画により特に解決すべき課題



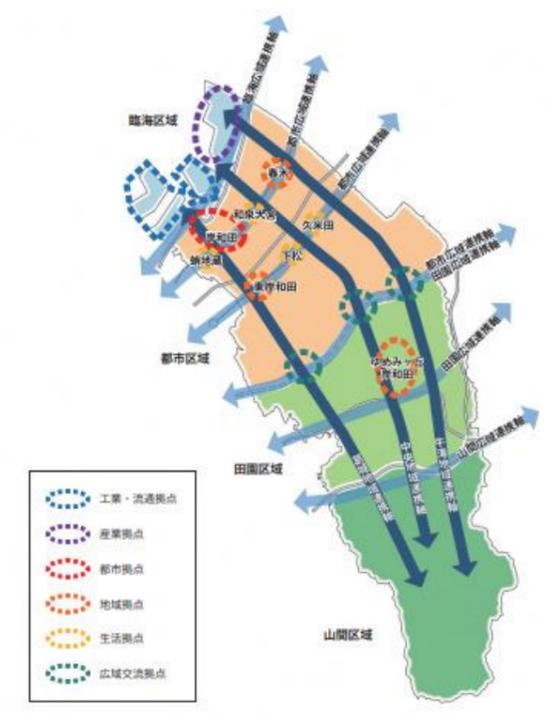
第3章 立地適正化計画における基本的な方針

1.まちづくりの方針(ターゲット)

○今後の人口減少に歯止めをかけるため、子育て世代を中心とした人々に対する働きかけや**公共交通の充実等による生活利便性の向上**などの対策によって、本市に住み続けたいと思う人がさらに増えるまちを構築

2.めざす都市構造

将来都市構造
「新・岸和田」づくり「都市計画マスタープラン」



3.課題解決のための方針(ストーリー)

- 誘導方針1)居住環境の維持・向上**
○地域特性を活かし、多様なライフスタイルを選択できる環境の充実と交通アクセスや災害リスクを考慮した居住誘導等により、居住地としての魅力の向上を図り、人口の定着を推進
- 誘導方針2)都市機能の集積とアクセスしやすい環境の形成**
○人口減少下においても持続可能な都市構造の形成に向けて、**高齢者の徒歩圏に配慮しつつ**、子育て世代等の魅力向上につながる生活利便施設の集積と**公共交通ネットワークの機能強化・維持を推進**
- 誘導方針3)災害からの安全性の確保**
○災害リスクを回避あるいは低減し、安全に暮らし続けられる市街地の形成のため、災害リスクを考慮した居住誘導や市街地の防災性、地域の防災力の向上を推進
- 誘導方針4)ゼロカーボンシティに向けた取組の推進**
○公共交通ネットワーク機能の強化、スマートモビリティの活用促進など効率的・効果的な交通ネットワーク構築等による自動車移動総量の抑制

第4章 交通まちづくり指針

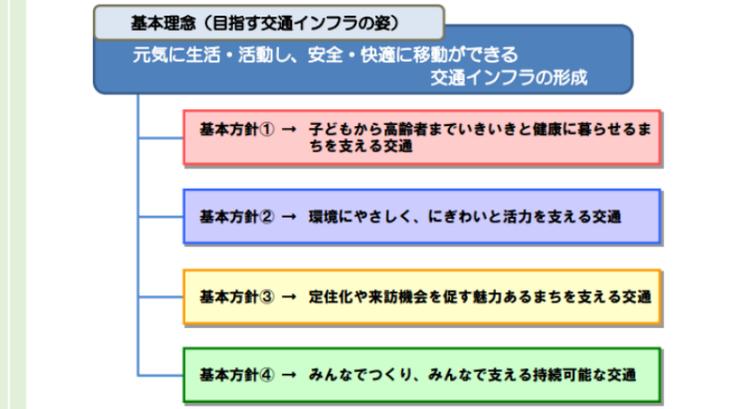
1.交通まちづくりについて

○各拠点と居住エリアとを結ぶ都市の骨格となる公共交通ネットワークの確保・充実として「岸和田市交通まちづくりアクションプラン」と連携した公共交通軸の形成や利用環境の向上を図ることで多極集約ネットワーク型のまちづくりを実現

2.対象とする交通

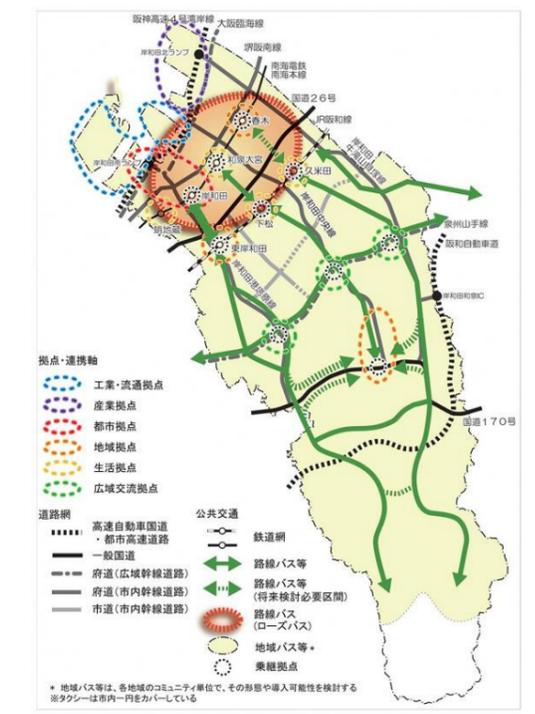


4.交通まちづくりの方針



3.交通まちづくりの将来都市像

地域公共交通網
岸和田市交通まちづくりアクションプラン[公共交通計画編]



第5章 防災まちづくり指針

1.防災まちづくりについて

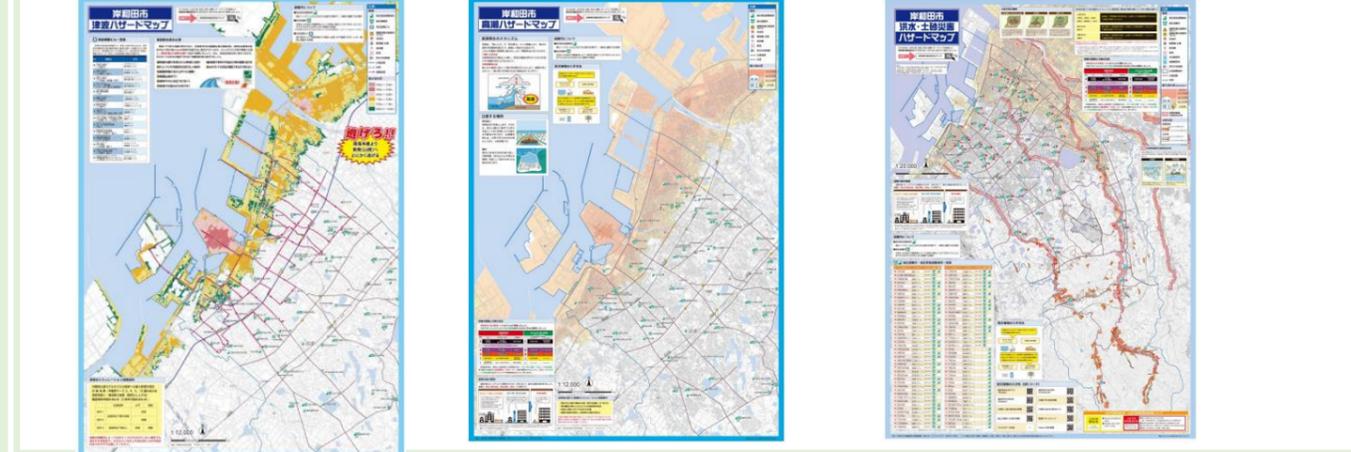
○近年、激甚化・頻発化する自然災害に備えるため、防災の観点を取り入れたまちづくりの必要性が高まり、令和2年9月に立地適正化計画に都市における防災・減災対策を盛り込むよう規定

○本指針においては、既成市街地の地理的状況を踏まえ、居住地の安全性を高めるため、災害リスクを回避・低減させる防災・減災対策を実施していくことを目的に、岸和田市国土強靱化地域計画、岸和田市地域防災計画との整合を図りつつ、具体的な取組を位置付け

2.対象とする災害

○津波・高潮・洪水・内水・土砂災害

3.災害リスクの状況



4.防災まちづくりの方針

○防災まちづくりの将来像:安全で安心して暮らせるまち

